

## 東京同窓会

二十九回生 池田成一郎

みなさん!!こんにちは。僕は平成七年卒業生の池田です。

僕は今、東京で学生をやっています。昨年の十二月に、西高東京支部の親睦会(飲み会)のお誘いがあり、出席しました。その会には、なつかしい同級生や歳の離れた先輩方、さらに、西高から西野先生と伊藤(和)先生にも多忙中、来ていただくことができました。

初めのうちは、「まあ、まったりとした会になるのでは!?!」と思っていました。今までに一度も会ったことのない人ばかりだったからです。ところが、みんな熱い!!もう三十分も経つと歳の差なんてまったく関係なく仲よくなりました。『今日は無礼講』という感じで先生方も打ち溶けることができました。かなり気分がよろしかったのかK・I先生は、会が終了した後あの新宿歌舞伎町でずっこけたそうです。ごくろうさまでした。

二次会、三次会になると、みんな語りモードになってきました。もちろん内容は西高についてです。西高について語らせたらみんな後を引こうとしません。卒業しても尚、それだけ西高が好きなのです。誇りを持っているのです。

西高のメインは、勉強も大切ですが、生徒にとっては西高祭だと思います。僕も含め、その会にはたまたま、群団長、リーダー長etcやっていた人が多くいたので、特に西高祭の話では盛り上がりまし

た。一、二カ月かかって構想を練り上げ、全校生徒で一つの感動を呼び起こすことができる西高祭。あの感動を育て上げた西高生にしか分らない思いを朝五時まで語りました。

みなさん、どうですか。僕たち卒業生は、今でも西高魂を忘れません。西高が大好きなのです。

いや、まさか西高を卒業して、こんな熱い思いをした日は久しぶりだったのでとてうれしく思いました。もしみなさんの中で遠方の学生の人は、是非このような会に参加してみてください。どの先輩も垢抜けていいことを教えてくれるかもしれませんよ。



## ご退職の先生からの

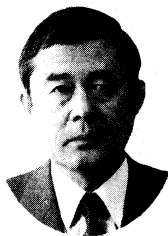
メッセージ

「心の古里」

西高を去って

前教頭 岩田 隆

(現平和高校長)



思えば長い年月でした。私にとって西高は三つ目の学校でしたが、転勤した当初には、その後二十二年もの長きに渡ってお世話になるとは思いもありませんでした。着任した年は、学校群制度が始まって間もない頃で、一宮高校をライバルとして、職員も生徒も目標に向って意気盛んでした。ちょうどその年に創立十周年式典が一宮市民会館で行われ、以来、二十年、三十年と三つも周年行事を体験できたのも奇縁でした。この間に合った生徒、教職員、事務職員、同窓会やPTAの役員の方々の懐しい顔が頭に浮かび、感無量です。

特に、群時代の昭和五十年代の後半は、色々な意味で、本校にとっても、私自身にとっても試練の時代でした。当時私は学年主任でしたが、色々苦労しながらも皆さんに支えられて次々に新しい指導企画を導入しました。あの激動の時代が、

ある意味で本校の新しい出発点となり、その流れは現在まで脈々と続いてきたような気がします。

西高は、時代の変化や制度の変化等の影響を受けて少しずつ様変りをしてきました。それが、それでも一貫して変わらないのは、生徒一人一人の可能性を三年間で最大限に伸ばす体制と心意気であります。そしてそれを支えているのは、職員集団の結束と職員・生徒・家庭の信頼関係であると思います。しかも、教育活動の力点も、学習指導に留らず、部活動や学校行事等にも及んで、華しい実績を挙げていることも誇るべきです。

西高は二、三数年で装いも新たになり、色々な意味で最も条件の整った時代を迎えています。私の「心の古里」である西高の更なる発展と、ここを巣立った諸君の社会での活躍を心から祈っています。



## 東京同窓会

二十九回生 池田成一郎

みなさん!!こんにちは。僕は平成七年卒業生の池田です。

僕は今、東京で学生をやっています。

昨年の十二月に、西高東京支部の親睦会（飲み会）のお誘いがあり、出席しました。その会には、なつかしい同級生や歳の離れた先輩方、さらに、西高から西野先生と伊藤（和）先生にも多忙な中、来ていただくことができました。

初めのうちは、「まあ、まったりとした会になるのでは!？」と思っていました。

今までに一度も会ったことのない人ばかりだったからです。ところがです。みんな熱い!!もう三分も経つと歳の差なんてまったく関係なく仲よくなりました。

「今日は無礼講」という感じで先生方も打ち溶けることができました。かなり気分がよろしかったのかK・I先生は、会が終了した後あの新宿歌舞伎町でずっこけたそうです。ごくろうさまでした。

二次会、三次会になると、みんな語りモードになってきました。もちろん内容は西高についてです。西高について語らせたらみんな後を引こうとしません。卒業しても尚、それだけ西高が好きなのです。誇りを持っているのです。

西高のメインは、勉強も大切ですが、生徒にとっては西高祭だと思います。僕も含め、その会にはたまたま、群団長、リーダー長etc.やっていた人が多くいたので、特に西高祭の話では盛り上がりまし

た。一、二カ月かかって構想を練り上げた。全校生徒で一つの感動を呼び起こすことができる西高祭。あの感動を育て上げた西高生にしか分らない思いを朝五時まで語りました。

みなさん、どうですか。僕たち卒業生は、今でも西高魂を忘れません。西高が大好きなのです。

いや、まさか西高を卒業して、こんな熱い思いをした日は久しぶりだったのでとでもうれしく思いました。もしみなさんの中で遠方の学生の人は、是非このような会に参加してみてください。どの先輩も垢抜けていいことを教えてくれるかもしれませんよ。



## ご退職の先生からの

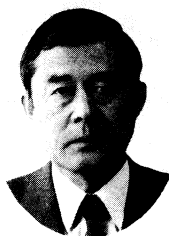
メッセージ

### 「心の古里」

### 西高を去って

前教頭 岩田 隆

(現平和高校長)



思えば長い年月でした。私にとって西高は三つ目の学校でしたが、転勤した当初には、その後二十二年もの長きに渡ってお世話になるとは思いもありませんでした。着任した年は、学校群制度が始まって間もない頃で、一宮高校をライバルとして、職員も生徒も目標に向って意気盛んでした。ちょうどその年に創立十周年式典が一宮市民会館で行われ、以来、二十周年、三十周年と三つも周年行事を体験できたのも奇縁でした。この間に出会った生徒、教職員、事務職員、同窓会やPTAの役員の方々の懐かしい顔が頭に浮かび、感無量です。

特に、群時代の昭和五十年代の後半は、色々な意味で、本校にとっても、私自身にとっても試練の時代でした。当時私は学年主任でしたが、色々苦労しながらも皆さんに支えられて次々に新しい指導企画を導入しました。あの激動の時代が、

ある意味で本校の新しい出発点となり、その流れは現在まで脈々と続いてきたような気がします。

西高は、時代の変化や制度の変化等の影響を受けて少しずつ様変りをしてきましたが、それでも一貫して変らないのは、生徒一人一人の可能性を三年間で最大限に伸ばす体制と心意気であります。そしてそれを支えているのは、職員集団の結束と職員・生徒・家庭の信頼関係であると思います。しかも、教育活動の力点も、学習指導に留らず、部活動や学校行事等にも及んで、華しい実績を挙げていることも誇るべきです。

西高はここ数年で装いも新たになり、色々な意味で最も条件の整った時代を迎えています。私の「心の古里」である西高の更なる発展と、ここを巣立った諸君の社会での活躍を心から祈っています。

